

特集 防災

地域ぐるみの防災活動

自主防災組織の必要性・非常持出し品の準備

南海・東南海地震の発生が危惧されるなか、小松島市自主防災連合会が8月1日に発足し、地域の枠を超えた相互連携のもと、自主防災会の強化充実と市全体の防災力の向上に努めています。

市民の皆さんも、改めて災害時におけるご自身の行動について、考えておきましょう。

地域ぐるみの防災活動

自主防災組織の必要性

平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災は、大規模災害における公的な消防防災体制の機能の限界を示す災害でした。この大震災により生き埋めや建物などに閉じこめられた人のうち、救助された約95%は自力または家族や隣人によって救助され、専門の救助隊に助けられたのはわずか数%でした。これは消防を始めとする防災関係機関自身の建物・車両などや道路や橋梁などが被害を受け、防災関係機関の災害活動に支障をきたすケースが増大するからです。

このことから消防などの公的機関が、発災直後に多数の被害者に対し、迅速に対応することは非常に困難であり、発災直後の人命救

助や初期消火は近隣の住民の力に頼ることが多いことが分かります。そして、発災直後の初期期では情報なども混乱し、防災機関による適切な対応が困難となることから、地域住民が相互に助け合い、人命救助や初期消火に努めることが被害の軽減に大きな役割を果たすこととなります。

そこで、地震やその他の災害から命・財産・住居などを守るために、また、住民が自分たちの地域は自分たちで守るといふ、自覚や連帯感に基づき自主的に結成する組織である「自主防災組織」結成の必要性が近年増大しているのです。

自主防災組織の平常時の活動

- ① 防災知識の普及
- ② 地域内の防災環境の確認
- ③ 家庭の安全点検
- ④ 防災用器材の整備点検
- ⑤ 防災訓練の実施

自主防災組織の災害時の役割分担

- ① 情報班
- ② 消火班
- ③ 避難誘導班
- ④ 救出救護班
- ⑤ 給食・給水班



時間の流れ

地震発生

地震対応マニュアル

<p>3日 数時間</p> <p>● 近隣住民、自主防災組織など協力し合い消火活動、救出、救護活動を行う</p>	<p>10分</p> <p>● ラジオなどで正しい情報を入手する</p>	<p>3分</p> <p>● 家族の無事を確認する</p> <p>● 火災が起こりやすい状態であるため、火災を未然に食い止める</p>	<p>5分</p> <p>● 津波、がけ崩れの危険がある場合は、指定の避難場所へ移動する</p> <p>● 靴をはく</p>	<p>1〜2分</p> <p>● 家族の安全を確認する</p> <p>● 火元を確認しガスの元栓を閉める</p> <p>● 火が出たら、素早く初期消火する</p> <p>● 避難出口の確保をする</p> <p>● 「身の安全」を確保する</p> <p>● すばやく火の始末をする。できれば、ガスの元栓を閉めましょう</p>
--	--------------------------------------	---	--	---

避難するときの注意事項

必ず揺れがおさまってから避難してください。火の点検と始末をし、逃げるときは瓦やガラス・看板などの落下に注意して、落ちついた行動をとりましょう。

避難するときは混乱防止のため、決められたルールと秩序を守り、自分勝手な行動は絶対に避けましょう。また、お年寄り、子供、身体の不自由な人をまず第一優先に考えて行動しましょう。

災害時に車、バイク等で避難すると、かえって避難が遅れます。また、避難道路や避難先にて車が混雑し、救援活動もできない状態になります。そういったことから車等での避難は絶対によめましょう。

避難時の服装



- ▼ 自主防災組織に関するお問い合わせ先
- ▼ 市防災安全課 (☎32・2227)
- ▼ 市消防本部 (☎32・0119)